

新型コロナワクチン 令和5年春開始接種は8月末まで

問い合わせ
保健センター ☎ 22-4699

7月11日から、使用するワクチンの種類をファイザー社製ワクチンに変更します。接種を希望する人は、早めの予約をお願いします。

対象者

初回接種（1・2回目接種）を終了した以下の人

- ① 65歳以上の人
 - ② 5～64歳の基礎疾患を有する人
 - ③ 医療従事者・施設従事者等
- ※②、③の人は接種券発行のために事前申請が必要

接種費用 無料

接種時期 8月31日まで（予定）


接種間隔 前回接種日から3か月経過した後

使用ワクチン

オミクロン株対応2価ワクチン

（7月11日からはファイザー社製BA4/5を使用）

予約方法

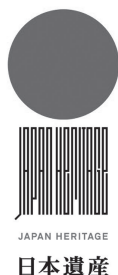
① ネット予約	 ※市のホームページからもアクセスできます。
② 電話予約	市新型コロナワクチン予約受付・相談ダイヤル ☎ 050-3625-9555（平日9時～16時）

予約受付中
です！



● ワクチン接種について困ったときは、保健センターまでお問い合わせください。

- ・接種券を失くしてしまった。
- ・子どもの接種を考えているが、どこで接種できるのか知りたい。
- ・最近竹原市に住所を変更したが、接種券が届かない。 など
- ・予約したいが、やり方が分からない。
- ・今から1回目を接種したい。



【連載】北前船日本遺産～構成文化財の紹介③～

今回は、竹原市内の北前船寄港地である竹原と忠海について、様々な地域との交流を示す構成文化財を紹介します。

製塩業を基盤に栄えた竹原には、塩の買い付けに北前船の商人が訪れました。市立竹原書院図書館資料群に含まれる「塩浜万覚書」という記録には、江戸時代末期の竹原塩の販売量は年間約16万俵、その半分ほどが北国行きであったと書かれています。竹原塩は、北前船によって瀬戸内海から日本海を廻り、東北地方にも運ばれていたのです。

忠海は三次藩の米の積出港として整備され、北前船等の廻船が寄港しました。忠海の港に現在も残っている常夜灯は、文化13（1816）年に尾道の塚脇和助という石工が制作したもので、北前船等の廻船が入港する際の目印になりました。忠海の商家である江戸屋羽白家に残っていた「御客帳」（こちらも市立竹原書院図書館資料群に含まれています）は、江戸時代後半から明治時代までの約70年間に取引をした顧客の名簿で、寄港日や交易品目が書かれています。これによると、現在の山形県・秋田県から鹿児島県までの様々な地域の顧客と取引をしていたことが分かります。

今回紹介した市立竹原書院図書館資料群と常夜灯群は、北前船に関連する様々な地域との交流について教えてくれる貴重な文化財として、北前船日本遺産の構成文化財になっています。今後も北前船日本遺産の認定を受けた自治体と連携しながら、調査を進めていきます。



問い合わせ 文化生涯学習課文化財保護係 ☎ 22-2328